

の總費額は三千五六百萬圓にして、之を五ヶ年或は六ヶ年に分ちて支出し、其完成の曉は五十萬噸を製出する筈、而して大正五年度に支出する分は約六百萬圓なるか、其經費の出所如何といふに一は公債募集の方法なり、二は製鐵所會計に根本的改正を斷行し、獨り運轉資金のみならず固定資金も亦た融通證券の發行によりて補足し得る方法を執るに在り、されと大藏當局は第一の公債案には迎も同意せざるべく、第二案の會計法の改正亦た容易ならず、茲に於てか第三案として益金計上の説あり、蓋し製鐵所にて擴張計畫を立てたる當初は、鐵價も現今の如く騰貴せず、由て大正五年度益金として約五百萬圓を計上したるに止まるか、現在の如く市價奔騰して製品賣下價格も三倍以上に達せしに付ては、益金實に數千萬圓に上るべく、當局者は其中先づ五百萬圓計りを五年度益金に増算し、これにて收支双方追加豫算として提出する都合なりと。

●鐵鋼に關する新企業 各新聞所載記事を掲載すれば左の如し。

三井の製鐵計畫 北海道炭礦汽船會社にては一月三十日總會に於て副業中の一部分を賣却し得る承認を求むる筈の由、これ三井にて製鐵業勃興の機運を察し、これに着手せんとするものにて、先づ該會社所有の輪西製鐵所を分離せしめ、所要鑛山を合し更に資本を投して一大製鐵會社を設立する希望なりと云ふ、其引受後の經營に關しては三井にて

目下各方面に亘り鐵鑛調査中にて、既に決定せるものとしては無きも、故橋本忠次郎氏所有虻田及俱知安兩鑛區に對しては内々交渉中の由、而して其鑛區の様子を聞くに、俱知安地方に産する褐鐵鑛區は鑛層時に五十尺に達するものありて、其面積も數百萬坪に及び、地質調査所の報告に據るも約七八百萬噸は優に採掘し得べく、一年二十萬噸を採るも三四十年は繼續すべしと。(東京朝日記事抄)

山陽製鐵會社設立計畫 松島誠氏が數年來經營せる木材乾溜業を擴張すべく、廣島縣比婆郡高野山村にて平面六千町歩の山林を利用せんとて計畫中、端なくも同山林中にて砂鐵鐵滓の良鑛を發見し、是れを乾溜業の副産物たる木炭を利用して製鐵する時は、優に市場に供給し得る見込立ちたる由にて、神戸鈴木商店の金子直吉氏等の賛成を得山陽製鐵株式會社を組織すべく、資本金は未決定なれとも三百萬乃至五百萬圓なりと。(十二月二十二日大阪毎日記事抄)

久原氏の製鐵事業 大阪の久原房之助の計畫せる製鐵所は既に福岡縣戸畑町名古屋崎附近一帶の土地十六七萬坪の買収を了し、引續き十二三萬坪の交渉中なるか、大體に於て其實買成立せる如く、愈々買収の上は、二千萬圓乃至三千萬圓の大資本を投して理想的に事業を開設すと云ふ、而して第一期事業の開始までには一年半乃至二年を要する見込にして、十ヶ年計畫を以て豫定の大事業を完了する筈なりと、因みに戸畑町にては代表的製鋼大事業か同地に設

置せらるゝを歓迎し、用地の如き若松築港會社所有の埋築地は別とし、其他は坪一圓七十五錢當りを以て、極めて迅速に殆んど畫一的に交渉の纏まりたる如きは異數なりと云ふ。

藤田組の滿俺鐵製造計畫 藤田組にては鑛物其他一般の精煉方に付き研究部を設けて研究中なるか、從來は輸入品なりし滿俺鐵を經濟的に製造する方法を按出し、之を製造することに内定し、工場を名古屋市の熱田に移すべく、既に敷地の買入れ契約及名古屋電燈會社よりの電力供給契約も略成立したるより、近き内に工事に著手すべく目下準備中なりと。

大倉組の木炭鐵製造計畫 本溪湖煤鐵公司にては、從來一ヶ年銑鐵三萬六千五百噸の銑鐵生産力を、當年中に倍加して七萬六千噸に増加せしむる計畫を立てしと同時に、木炭銑鐵てふ本邦未曾有の製鐵事業を計畫するに至れり、同製鐵事業は大食男一個の事業として、硫黄分等を全く除去して強度の鋼を製造する事業にして石炭に頼らず木炭のみに頼る製鋼方法なるか、同製法の企業には資本金約三百萬圓を要する見込にて、其製鋼所の位置は未定なれとも、木炭供給の關係上北海道方面に於て選定せらるへしといふ。

(二月五日中外商業)

●鐵鋼供給問題の講演討論會 現今鐵鋼材輸入の途殆と杜絶し造船業其他鐵鋼材使用者の困難一方ならず、

由て多數の斯業従事者を一堂に集め鐵鋼の供給に付き目下應急救治策を立て、進て永久に鐵鋼の自給策を講せんとの趣意を以て、本會か造船協會、機械學會、火兵學會、電氣學會等と聯合して開催せる講演討論會は、豫定の如く一月十五日午後一時半麴町區永樂町東京驛内ステーションホテルに於て開會せり、來會者無慮六百、流石の大廣間も實に立錫の餘地なき盛況なりき、定刻に至り寺野精一氏を座長に推し、同氏の開催の辭に次ぎ、今岡純一郎氏演壇に上り鐵鋼の獨立自給策を大別して二となし、永久的方法としては(一)官營製鐵所の擴張(二)民營製鐵所の獎勵これは現に續々興起しつゝありとて其名稱を擧げ(三)官營製鐵所を拂下けて官民合同會社となし大に擴張する事とし、救急的方法としては(一)外國鋼材を出來得る限り多量に輸入する事(二)内地製鐵所の生産方針を最も有效なる方面に向くるととし、若し何等かの方法を講せされは至る所骨無き船の横たはるを見んと結論し、次に野呂景義氏は通知狀には日本鐵鋼協會理事長とあれとも述ふる所は野呂個人の意見なりと前置して、先づ製鐵の第一義は鐵鑛の供給にあり、鐵鑛の供給を豊かにするには(一)探鑛の獎勵(二)日本産鐵鑛使用の獎勵(三)鐵鋼の運賃引下げ等の諸要件あり、又た現今盛に興起する製鋼所は何れも原料を無視せるか如し、製鋼は製銑と相伴ひ連續作業するに非されは不利益なり、且つ製鋼事業は現今は極めて有利なれとも戰亂終熄して外品再び輸